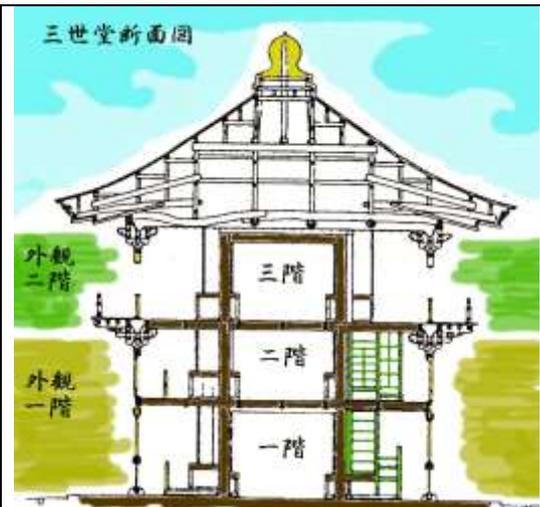


日本固有の木造建築「さざえ(栄螺)堂」

茨城県取手市のさざえ堂

大鹿山長禅寺三世堂(おおしかさん ちょうぜんじ さんせいどう)は、別称「さざえ堂」といいます、茨城県の県指定重要文化財です。



2006年、取手さざえ堂を背景に新四国相馬霊場 88ヶ所を巡る会。

三世堂の断面図で内部三階の構造図。

長禅寺の山号の大鹿山は「おおじかさん」といいます。現在の取手競輪場を中心とした台地がその所在地でした。

長禅寺の創建は、大鹿山の一面(現在の白山にある金刀比羅神社で敷地内に、長禅寺管理の地と標柱が残っている)に建立されましたが、江戸時代に水戸街道が整備され、街道筋の変更により現在の地に移りました。

創建時の長禅寺在地から移ったのは、徳川頼房(水戸藩主)が慶長 14 年(1609)移封後に水戸街道とした頃です。

十一面観音堂をさざえ堂建築形式に改築

文暦元年(1234)平将門の弟、将頼の子孫と言われる、大鹿左衛門尉綾部時平が十一面観音堂として建立したと伝えられています、十一面観世音菩薩立像は、慶派の安阿弥(あんあみ)快慶の作と云われているようです？

宝暦十三年(1763)、長禅寺住職幻堂和尚は、弟子であった光音禅師に、朽ちかけた観音堂の改築をまかせました。

さざえ堂には、一階にご本尊の十一面観音と坂東三十三ヶ所、二階に秩父三十四ヶ所、三階に西国三十三ヶ所の百一体の観音像が奉られています。観覚光音禅師の発願で螺旋階段を登る壁面を活用して百一体の観音像を安置し賽銭箱を設置しております、ここに賽銭箱のカラクリが潜んでいます、賽銭箱の底は一階のある場所に集まるように工夫されており、賽銭箱には賽銭が残らないのです。又さざえ堂の特徴としての外観は二階建にみえますが内陣は三階建てで螺旋状の階段は上りと下りが別々とされ、一方通行方式になっており、三世堂は、当時人気となり諸国近隣より人々が集まるようになりました。(参考文献取手市史、長禅寺縁起)

以前は、三階の中心部分から下を覗くと一階フロアが望めるアトリウムのような吹き抜けになっていましたが、現在は板を張り塞がれています、内部の階段は急なので特に下り階段は後ろ向きで降りると良いでしょう。

安永九年(1780)に建立されたさざえ堂のルーツといわれる、本所五百羅漢寺三匠堂(焼失により現存しない)より古く日本最古と言えます。昭和 46 年改築により、賽銭回収方式とアトリウムは建物全体の歪み修復でなくなる。

さざえ堂としての発願は観覚光音禅師ですが、建立は幻堂和尚でありその御心を尊ばなければなりません。

日本いや全世界的視野を含めて、最古の栄螺形式建造物が仏殿として貴重な国有財産物件と思われます。

御開帳は年一度、四月十八日に堂内を公開します。

全国にある歴史的な栄螺堂

さざえ堂は、なぜか関東地域より北に位置する所に多く存在しています。

福島県会津飯盛山正宗寺三匠堂、さざえ堂

国指定重要文化財

会津さざえ堂は、福島県会津若松市の飯盛山に寛政八年(1796)に建立されました。

横一列の宝塔の周りには、曼珠沙華が咲いていました。

山道沿いには、芭蕉の句碑などがありましたが、「観音の」に続く句は解読できず、悔しい思いです、ホームページで検索しましたが、みつかりませんでした。



仁王門の鬼瓦は、鯪(しゃちほこ)でした。

春と秋の年二度開花する、四季桜。

仁王門の屋根には鯪が建ち、珍しい造りではないかと思えます、でも児玉瓦の町でしたね。

百体観音堂は、児玉三十三観音霊場の第一番札所となっております。

一階は、秩父三十四霊場。二階は、板東三十三霊場。三階は、四国三十三観音霊場で日本百霊場観音が祀られております。さざえ堂の正面にあります、鰐口は日本最大の大きさを誇るもので、直径 1.8m 重量 800 kg もあり、音もそれなりに低音の重厚さを感じました。

児玉町の児玉瓦は、強度耐震防水性に優れ、鎌倉時代からの歴史がある瓦です。

青森県弘前市の六角堂、陸奥長勝寺蘭庭院。天保十年(1839) 弘前の豪商中田嘉平衛の寄進。

	<p>さざえ堂のルーツとされる江戸本所の五百羅漢寺三匠堂</p> <p>さざえ堂から富士山を望む浮世絵と本所さざえ堂の境内絵図 焼失の為に三匠堂は現存しない。</p>
<p>会津の栄螺堂と同じく、ねじれ建築様式の六角堂</p>	<p>葛飾北斎「富岳三十六景内ごひやく羅漢寺さざえ堂」の浮世絵</p>

文書内の追加説明

川施餓鬼 読み かわ せがき

施餓鬼は、餓鬼に苦しんで災いをなす鬼衆や無縁の亡者の霊に飲食を施し、仏に供養することによって餓鬼を救済し、自身も長寿することを願う仏事をいいます。特に川辺で死者の霊を弔う施餓鬼を川施餓鬼といいます。

水死者の法名を記した経木(きょうぎ)や供物(くもつ)などを川に流します。近頃は、盆行事などで精霊(しょうりょう)流しを行う所が多くなりました、霊者を送る行事なので、本来の意味とは多少違うようにも感じますが、伝統として残してもらいたいと思います。